

芥川賞作家による
「災害ユートピア」をめぐる講演会

破滅と 希望

日時
2017 7.15 土
14:30~16:00 (受付14:00~)

講師 平野啓一郎 (作家)

会場 九州大学
文学部会議室
(箱崎キャンパス、文学部4階)

交通アクセス

<http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/access/>
バス停「九大北門」から徒歩2分
地下鉄「箱崎九大前」から徒歩10分

企画者 / 小黑康正 (九州大学大学院人文科学研究院 教授、ドイツ文学)

入場料無料

但し定員70名になり次第、受付終了

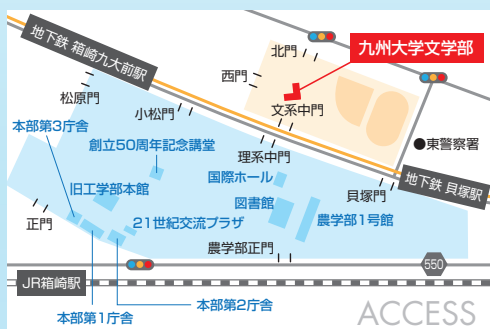


2011年3月11日の東日本大震災後、日本人が見事な「冷静さ」と「秩序」を示したことは、世界中で報道されました。もともと、自然災害の直後に一致団結して互いに助け合うのは、日本人だけではありません。この事は、既に2009年に、アメリカのレベッカ・ソルニットの著作『震災ユートピア』において明らかにされておりました。

但し、19世紀初頭にドイツの劇作家ハインリヒ・フォン・クライストが『チリの地震』で描いているように、大惨事直後に理想的な助け合いがまるでユートピアの成立を促すかのように生じますが、しかしながらそうした連帯は残念ながらそれほど長続きしません。なぜ私たちはそうした相互扶助を共同体として維持できないのでしょうか。

芥川賞作家であり、『日蝕』(1998)、『葬送』(2002)、『ドーン』(2009)、『マチネの終わりに』(2016)などの小説や、『私とは何か「個人」から「分人」へ』(2012)などの評論・随筆で著名な平野啓一郎氏が、三島由紀夫、トーマス・マン、エルンスト・ユンガーと関連づけながら、「災害ユートピア」について講演をされます。

なお、講演会は、西日本日独協会の協力を得ながら、九大独文科学研究会「ドイツの文学・思想におけるトポスとしての黙示録文化」が行う企画です。この研究会は、平成26-30年度科学研究費補助金基盤研究(B)の助成を受けながら、「〈終末〉の終末は可能か」という問題に取り組んでいます。



申込方法

西日本日独協会事務局にメールにて7月10日(月)までにお申し込みください

E-mail: info@jdg-nishinihon.org

Fax(&Tel): 092-524-0059 (電話対応は火&金12時~15時のみ)